



復元した大谷一良アトリエ

## 退任のごあいさつ

館長 山崎ちづ子

雪の解け始めた3月、アルプの白樺林の木を大量に伐採しました。美術館のシンボルとも言える林でしたので、様変わりして淋しくもありましたが、残された木々の若葉が風にそよいでいるのを見ると森の再生の一步が始まった気がします。

私ごとですが、この度、館長を退任することとなりました。初代館長の山崎猛が亡くなってから6年近く館長をして参りましたが、美術館を永く続けるためにも若い世代に託す時期であると判断いたしました。

若い人たちの活字離れが言われますが、68年前に発刊された雑誌「アルプ」を吟味して購入してくれている様子を見ると、紙の本の良さは時代を超えて受け入れられ、初代館長の設立の思いが伝わっている……と嬉しく思っております。これからは理事長として川村館長と共に、関係者一同より良い美術館運営に励んで参ります。これからもよろしくお願いいたします。

## 就任のごあいさつ

川村 喜一

6月より北のアルプ美術館の館長に就任いたしました。川村喜一と申します。私は2017年から斜里町に暮らしている写真家です。移住間もない頃に友人を通じて山崎猛初代館長と出会い、以来様々なかたちで美術館に携わってきました。

猛さんからは、知床に住まう写真家としての心構えを教わり、握手を交わす分厚い掌から、溢れ出る情熱と世界を愉しむ詩心を受け取りました。前館長のちづ子さんからは、その炎を絶やさぬ信念と、庭の花々を慈しむような朗らかな気配りを。身が引き締まる思いでいっぱいです。北のアルプ美術館には、「アルプ」の作家たちだけでなく、関わってきた方々、訪れた人々の静かな想いが集まっています。館長という身に余る役目を拝しながら、私自身もその想いに支えられてきた一人として、この美術館が人々の心を寄せられる穏やかな場であり続けられるよう、皆さまと共に努めて参ります。

2026企画展のお知らせ「<sup>あき ひさ</sup>生誕100年 山口 耀久 展」

会期 2026年6月18日(木)～2027年5月23日(日)

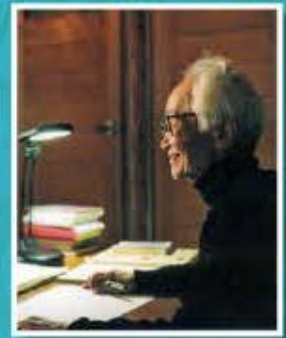


山の文芸誌「アルプ」の編集に参加し、300号の終刊まで委員を務めた山口耀久さんの生誕100年を記念した特別展を開催いたします。  
本展では直筆原稿、写真、資料のほか関連する他の作家の作品や資料をともに展示いたします。



1926年、東京生まれ。10代のなごころから登山を始め、戦争末期の44年に有志と獨標登高会を設立、その初代代表を務めた優れたトップライマーでもあり、八ヶ岳や南アルプスで初登攀を含む足跡を残した。2008年、美術館敷地内の山荘（現在、山岳文庫）に滞在し、著書「アルプの時代」（2013年刊行）の執筆に打ち込む。2024年1月10日逝去。享年97歳。

山口 耀久 略歴



2025年の振り返り

計報に寄せて

- ▼3月1日 開館
- ▼6月12日 所蔵作品展「アルプの表現者たちパート2（5月24日）／生誕100年展 串田孫一の旅（開催中）」
- ▼6月14日 アルプの森づくり ワークショップ
- ▼8月11日 山の日 串田孫一のスケッチブック特別上映会
- ▼11月1日 大谷一良アトリエ 復元公開／復元公開記念パーティ開催

当館と長く親交があり、お世話になった方々が亡くなられました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



串田 光弘さん  
（2026年1月2日逝去／82歳／グラフィックデザイナー）

串田孫一さんの次男で、1969年から半世紀にわたりマンガ誌「ピックコミック」（小学館）の表紙を担当し、デザイナーとして活躍されました。当館20周年事業「串田孫一の仕事部屋」の移築・復元時には多大なるご尽力をいただきました。



平野 安雄さん  
（2025年10月19日逝去／91歳／釧路市在住）

独学で広告美術を研究し、北のアルプ美術館イラストロゴやキャプション制作など、当館創立の準備室長としてご尽力をいただきました。



- ▼11月30日 仕事納め
- ▼12月6日 大掃除（ボランティア参加者14名）

奥田 祐也《北海道 上川郡/編集者》



編集者という肩書きは、パスポートみたいだなと思うことがときどきある。取材OKの証印を押してもらえば、あらゆる場所に入り出すことができ、会いたい人にだって会うことができるのだから。

コヨーテという雑誌で申田孫一さんの特集したのは2017年秋のことだった。当時登山に熱中していた私に編集長が、山が好きなら申田孫一の本を読むといいと薦めてくれたのが、申田文学に触れるきっかけだった。薦められるがままヤマケイ文庫の「山のパンセ」と『若き日の山』を買って読んでみると、これが60年も前に書かれたことにまず驚いた。心地いい文章のリズムと日本語表現の美しさに加え、自分ではうまく言語化できなかった「山に行きたくなる気持ち」が見事に言い表されていた。高揚した気持ちのまま編集長に感想を伝えるべく、

「よかった、今度申田さんの特集をやるから」という思いも寄らない展開が待っていた。このときの「申田孫一のABC」が、編集者としての私のキャリアの第一歩だったと今になって思う。

「アルプ」とその時代の芸術表現にすっかり魅せられた私は、校了後すぐに北のアルプ美術館を訪ねた。山崎猛さんとちづ子さんに労いの言葉をかけられ、昼食までご馳走してもらったのを覚えている。その後も開館30周年の取材をさせていただいたりと交流は続き、今年は版画家の大谷一良さんを雑誌で取り上げる好機に恵まれた。しかし、大谷さんの作品や資料の山と向き合いながら執筆をしていると、かすかな寂しさを感ずる瞬間があった。返事が来ないとわかっているのに、「これで合っていますか？」と手紙を書いているような気持ちになるのだ。

編集の仕事をしていると、あらゆる分野において先人たちへの興味は尽きない。ご存命のうちにお目にかかりたいという憧れの気持ちは、しばしば「間に合わなかった」という後悔へと変わることもある。申田さんも「アルプ」を編集されながら、そんなやりきれない気持ちを感じることはあったのだろうか。そんな些細な問いにも答えてもらえない現実には、また少し寂しさを感じてしまうのだった。

復元!

## 大谷一良のアトリエ



Kazuyoshi Otani

1933年、東京生まれ。東京外国語大学スペイン語科卒。総合商社勤務を経て96年よりフリーの版画家。畦地梅太郎氏に私淑。「アルプ」をはじめ「山と深谷」「岳人」など多くの山岳関連図書に表紙画やカット、文章を発表。

東京の大谷さんのご家族からアトリエを取り壊すので、当館の中で復元できないかとの申し出を受け、昨年1月に壁・床・窓も含むすべての物を運び出しました。かつての展示室を改装して、11月1日に公開しました。写真を見ながら同じ位置に物を置いていくのはパズルのようで、苦労したというよりは面白かったです。小学生は廊下にある版木に興味を示していました。作家の本物のアトリエを見られるのは貴重な機会。ぜひいらしてください! (山崎・談)



完成写真は今号の表紙です



## Open

中標津町  
佐伯農場に  
大谷一良文庫館  
オープン!

中標津の佐伯農場（標津郡中標津町字俣落2000-2）に「大谷一良文庫館」が開館しました。本棚には大谷さんの愛した蔵書が収められ自由に手に取り読むことができますので、ぜひ一度足をお運びください。



## Event

8/11(火)「山の日」  
葉っぱ切り絵  
ワークショップ  
開催します

8月11日(火)「山の日」に、森のリーフアーティスト・佐野由輝さん（遠軽町在住）を講師に招き、樹木の葉を切り抜いて作る切り絵のワークショップを開催いたします。詳細は決まり次第、公式サイトやSNSで発信いたします。

## Alp Museum



## Information

### Donation

### 寄付のお願い 〈外壁改修と森づくり〉

開館34年を過ぎ、外壁の老朽化が進んでいるため、この秋大規模な外壁改修工事を実施する運びとなりました。

アルプの森の再生事業も含め、美術館を永く続けるために、皆様からのご寄付をお願い申し上げます。ご賛同いただける方は、ご寄付をお寄せいただけますと幸いです。なお、夏頃にはインターネットからもご寄付いただけるよう準備を進めております。詳細は公式サイトやSNSをご確認ください。



▲傷んだ外壁



伐採後の  
アルプの林▶

### Volunteer

### ボランティア募集中です!

当館のサポートをしてくださるボランティアを随時募集中です。1日だけのお手伝いでもOK!草取り、草刈り、枝拾い、落葉集め、掃除、展示替えなど様々な活動がありますので、関心のある方はお気軽にご連絡ください。

[電話] 0152-23-4000



ボランティア情報  
を発信するLINE  
オープンチャット。  
ご登録歓迎!

## 編集後記

アルプの森の老木を伐採しました。長年見慣れた景色が変わってしまったことや森に集う生き物たちのことを想うと一抹の寂しさを感じていました。そんな矢先、日本最大のキツキで国の天然記念物に指定されている「クマガラ」がこの森に現れたのです。厳しい自然環境の中、餌を求めて力強く木を突く姿に元気づけられました。伐採により住処を追われたエゾモモンガが新たな場所で元気に暮らしていることを願うばかりです。  
(上美谷)

昨年冬季限定スイーツSNOWSの「スノーサンド 北のアルプ美術館限定パッケージ」を当館で特別販売させていただきました。今回をもちまして本パッケージの販売は一区切りとなります。販売元の株式会社COC様のご協力とご購入いただいた皆様に心より感謝申し上げます。(スタッフ一同)

### アルプ基金・寄付金 報告

2025年4月1日から、2026年3月31日まで、2,217,949円となっております。ご協力、ご支援に心より感謝とお礼を申し上げます。

公式サイト



北のアルプ美術館 北海道斜里郡斜里町朝日町11-2

TEL.0152-23-4000 <http://www.alp-museum.org>

夏期(6月~10月) 10:00~17:00 冬期(11月~5月) 10:00~16:00  
月・火・水曜日休館(ただし、祝日の場合は開館)

12月~翌年2月末は冬期休館

北のアルプ美術館たより「緑風」No.34

2026年6月発行

編集：上美谷和代/川村喜一/山崎ちづ子

編集補助・デザイン：中山よしこ

印刷：(株)斜里印刷